

ここに展示されている石は、「力石」と呼ばれる石です。

皆さんは「力石」をご存知でしょうか？諸説ありますが、江戸時代から明治時代まで、全国各地の神社の祭りなどで娯楽と鍛錬を兼ねて盛んに行われていた、若者たちの「力試し」の際に用いられた石のことをいいます。現在でも「力石」は各地に保存されており、例えば東京の富岡（深川）八幡宮の境内には記念碑があり、また「力試し」は1956年（昭和31年）に東京都無形民俗文化財に指定されています。

この3個の「力石」は、故平原直氏から寄贈されたものです。平原氏は、人間生活に不可欠な「運輸・運搬」という作業の重要性、またそれを担う人々の社会的地位の向上、作業の過酷さからの解放による労働環境の改善を願って、昭和初年から研究をスタートさせ、物流の科学的研究の道を拓いた斯界のパイオニアの一人です。こうした先駆者の地道な努力の継続が、世界に誇るべき今日のわが国の物流・ロジスティクスの礎となりました。

それぞれの「力石」には、銘や重量などが刻まれています。その一つに「再会」と刻字された石があります。平原氏の著書によれば、この石は第二次世界大戦前に日本通運株式会社秋葉原支店にあったもので、同社が作業員などを雇用する際にこの石を持ち上げさせて採否や賃金の額などを決めていた、ということです。大切なこの石も、戦争の混乱で一時行方不明となってしまったものの、戦後偶然にも国鉄秋葉原駅改修工事の際に掘り起こされ、これを大いに喜んだ関係者が当時の秋葉原駅長に『再会』の揮毫を依頼し、石に刻字したとのこと。この石は祭礼の際だけではなく、ビジネスの現場で関係する人々に愛着を持って使われていた貴重なものといえます。

本学は、1965年（昭和40年）に日本通運株式会社の出資によって創設されましたが、当時の大学の学則には学園設立の目的として「経済学就中（なかんづく）流通経済」の教育、研究が掲げられていました。当時はわが国の高度経済成長期にあたり、急速に発展が予想された流通、物流分野の科学的研究と最先端の学問、技術を修得した人材の育成が社会から強く求められていたのです。

今日、本学は経済の単科大学から中規模総合大学へと発展しましたが、その原点は社会のニーズに応え、人々の生活を豊かで健康的にするために研究、教育の面から貢献し、有為な人材を育成、輩出することには変わりはありません。そして、今後もこの基本的な方針は不変です。

本学創立50周年事業の一環として建設されたこの建物に展示される3個の「力石」は、本学創立の原点を常に想起させ、地道な不断の努力の重要性を継承するモニュメントになるものと確信しています。